

第3号議案 奨励賞選考の件

選考委員会報告：委員会:2回

1. 選考プロセスの確認

1月9日 「募集のお知らせ」を公表（事務局）

12月14日 第1回選考委員会

1月末日 募集締切り

2月22日 第2回選考委員会で応募者の確認と審査

2. 応募者の確認と審査

昨年より締切りを1ヶ月延ばし、1月末としたが応募は実務部門の1件だけであった。これはHPでの掲載が遅れたことも影響したと考えられる。来年度からはミスのないように規定に基づき以下の4項目で評価した。（配点は以下の通りで、計25点満点）

将来性（個人としての観点）	5点満点で評価、コメントをつける
発展性（分野としての観点）	5点 "
適切性（業績・成果の水準）	5点 "
その他、特記事項	10点 "

委任状を除く当日出席者6名による個別審査ののち委員会で審議の結果、以下の応募者を、2007年度奨励賞・実務部門の授賞対象の候補とすることを決定した。

（実務部門） 林希一郎 名古屋大学・准教授

3. 今後のスケジュール

3月12日 第3回選考委員会で再度吟味のうえ、最終決定

3月12日 常務理事会に報告

4月11日 理事会で承認へ

表彰状の作成、副賞の準備

5月17日 総会にて表彰

4. 来年度からの募集の工夫

学会誌に掲載された審査付論文は、年齢が該当する者は自動的に審査対象とする。執筆者には、投稿時に奨励賞の研究部門、実務部門のどちらでの奨励賞審査を希望するかを聞いておく。

来年度は、過去5年分（学会誌の第2巻から第6巻の掲載論文）を対象とする。

再来年度以降は、過去3年分を対象とすることとする。

以上の提案がなされ、委員会での合意が得られた。